

番号	科	名称	天気	19年度観察数												観察月数	観察数合計		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
				12	18	12	10	20	11	9									
1	カモ	カルガモ			4												1	4	
2	ハト	キジハト		3	1	2	4		2								5	12	
3	カッコウ	ツツドリ															0	0	
4	トビ	トビ	VU														0	0	
5	タカ	ツミ	CR														0	0	
6	キツツキ	コゲラ		2	2	5	5		2	2							6	18	
7	キツツキ	アカゲラ	NT														0	0	
8	キツツキ	アオゲラ	NT	1	1				2	1	1						5	6	
9	ハヤブサ	ハヤブサ	VU														0	0	
10	モズ	モズ	VU								1						1	1	
11	カラス	カケス															0	0	
12	カラス	オナガ			2	3	4		1	6							5	16	
13	カラス	ハシボソガラス		2			7	3	5	3							5	20	
14	カラス	ハシブトガラス		3	6	4	4	10	12	6							7	45	
15	シジュウカラ	ヤマガラ															0	0	
16	シジュウカラ	シジュウカラ		8	10	8	23		11	18							6	78	
17	ツバメ	ツバメ		1			11										2	12	
18	ツバメ	イワツバメ					2										1	2	
19	ヒヨドリ	ヒヨドリ		14	14	14	7		7	23							6	79	
20	ウグイス	ウグイス	NT	4			2										2	6	
21	エナガ	エナガ	NT	2		3	21		12								4	38	
22	メジロ	メジロ		4	6		19		5	6							5	40	
23	ムクドリ	ムクドリ			19		21										2	40	
24	ヒタキ	シロハラ		1													1	1	
25	ヒタキ	ツグミ															0	0	
26	ヒタキ	ルリヒタキ															0	0	
27	ヒタキ	ジョウビタキ															0	0	
28	スズメ	スズメ															0	0	
29	セキレイ	ハクセキレイ															0	0	
30	アトリ	アトリ															0	0	
31	アトリ	カラヒワ															0	0	
32	アトリ	シメ															0	0	
33	アトリ	イカル	NT														0	0	
34	ホオジロ	アオジ		2													1	2	
観察種数 月 / 年				13	10	7	13	3	10	9	0	0	0	0	0	0	0	18	



月	19年度 コメント
4	ウグイスの囀りが聞こえた。アオゲラを観察。シロハラ が地上で採餌していた。
5	歩く先々でムクドリが採餌し、飛び交っていた。ガビチョウが営巣しているようだ。
6	シジュウカラの幼鳥が飛び回っていた。シジュウカラ、コゲラ、エナガの混群が見られた。
7	武蔵台公園では、イワツバメは初認。シジュウカラ、エナガ、メジロ、ヒヨドリの幼鳥を確認。繁殖を証明。キジバトと思われる食痕確認。猛禽類のエサ場となった。
8	19日夜半の雷雨で散策路の枯葉が流され綺麗になっていた。鳥の声も姿も少ない中、藪でガビチョウが2羽動き回って
9	9日早朝の台風の影響で倒木が見られた。カラスの数が目立ったが、シジュウカラ、エナガなどの混群が観察された。
10	アオゲラの鳴声が聞こえ、を確認。混群が見られず、エナガが確認できなかった。
11	
12	
1	
2	
3	

注1:表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。  
 注2:名称欄記号は、2010年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリー表示。

その他

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト		4						2					
ガビチョウ			2			2		2					
ソウシチョウ													
ホンセイインコ			2										

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2010年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧 A類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 B類	EN	A類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧 類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの